正しく表示されない場合は、ブラウザで表示させてください。

ICRC

赤十字国際委員会 ニュースレター

10月号 2024



今年のノーベル平和賞に、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が選ばれました。実は、私たちICRCも過去に３度、同賞を受賞していることをご存じでしたか？

赤十字の創始者、アンリー・デュナンが栄えある第一回の受賞者となったノーベル平和賞。ICRCは、デュナンに続け！と、第一次・第二次世界大戦における人道支援活動に対してそれぞれ1917年と1944年に、そして創設100周年を迎えた1963年には、ジュネーブ条約の推進と第二次大戦以降の功績が認められ、IFRC（国際赤十字・赤新月社連盟）と共に受賞しました。



核兵器禁止条約ができたことで何が変わるの？

ICRCとIFRC、日本赤十字社の違いって？

日本人に知ってもらいたい！



紛争の最前線で人びとに寄り添う私たちは、人道外交を通して、戦時の決まりごとである国際人道法の遵守の促進や、人道支援要員の安全確保の徹底を図っています。
国連ハイレベルウィークの期間中には、ブラジルなど６カ国と政治的なコミットメントを促進する世界的なイニシアティブを開始。日本政府も国際社会と連携し、声を上げてくれています。

政治の優先事項として国際人道法の尊重を！

紛争の現場から



ガザ・イスラエル人道危機の激化から１年

戦闘は周辺地域に広がり、これまで数万人の命を奪い、数百万人が家を追われています。地域の住民は、広範囲に及ぶ荒廃と、人間性を奪う行為を目の当たりにし、耐え難い苦しみや喪失感に満ちた一年となりました。人間の苦しみや悲しみに国境は関係ありません。私たちは心を痛め、一向に答えの出ない疑問を抱え続けています。

苦痛と喪失の一年



ガザとイスラエルの紛争が飛び火し、レバノンでも民間人の死傷者が増加しています。私たちは緊急支援の態勢を整え、レバノン赤十字社とともに日々奔走していま

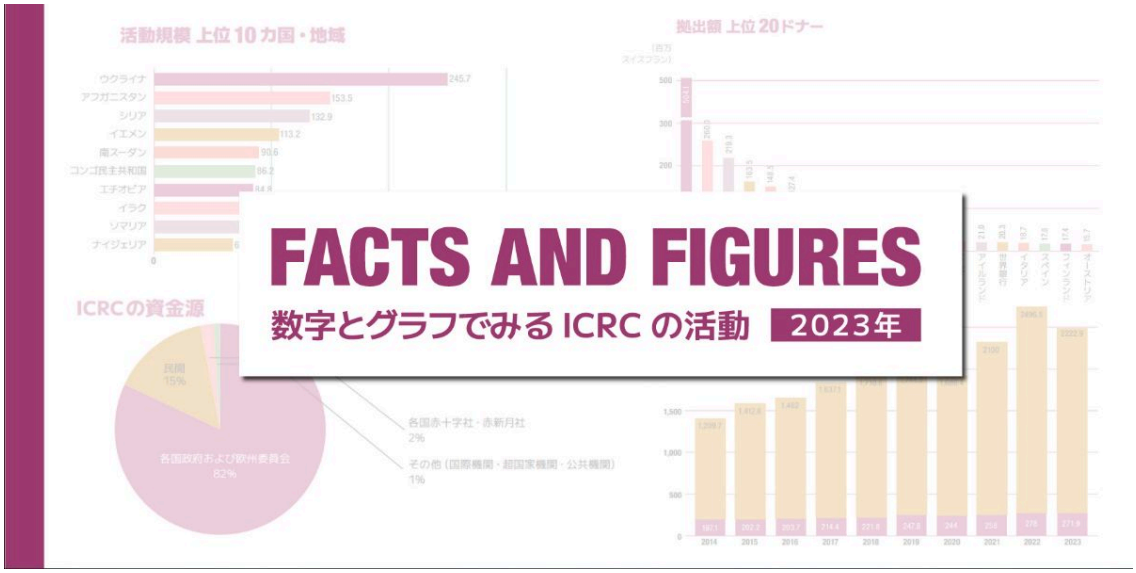
レバノンで緊急支援を実施



レバノンの情勢悪化を受けて、日本赤十字社が救援金の受付を開始しました。皆様の善意は、レバノン国内だけでなく、レバノンからの避難民を受け入れる周辺国およびその他の国々での赤十字運動による救援・復興活動等に充てられます。

詳細はこちら（日本赤十字社のサイトに移動します）

駐日代表部だより



2023年の年次報告書をもとに、ICRCの１年間の活動を、数字とグラフでわかりやすくまとめました。私たちの世界各地での活動をまるっと知ることができます！

その他のニュースはこちら

E-newsletter のアーカイブはこちら

© 2024 INTERNATIONAL COMMITTEE OF THE RED CROSS

配信停止をご希望の方は、お手数ですがこちらよりお手続きください。
ICRC駐日代表部のプライバシーポリシーはこちらでご確認できます。

INTUIT mailchimp